

# 保健室からのお知らせ (麻疹について)

H30.5.11  
中村高校 保健室

## 愛知県内で「麻疹 (はしか)」が流行しています。

沖縄県で平成30年3月下旬に麻疹と診断された台湾からの旅行客を発端に、この旅行客と接触のあった者や同じ施設を利用した者を中心に感染者が増加しており、4月25日時点で71名の患者が報告されています。

愛知県では、4月11日に沖縄旅行帰りの者で麻疹患者が発生し、その後**5月6日現在で17例の患者が報告**されています。

「麻疹 (はしか)」は非常に感染力が強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症すると言われています。

「麻疹 (はしか)」の予防には、自分が「免疫を持っているか？」確認する必要があります。

①「麻疹 (はしか)」の免疫を持っている人は次の人です

- ・過去に「麻疹 (はしか)」にかかった人
- ・2回のワクチン接種を行なった人

②「麻疹 (はしか)」の予防接種歴を母子健康手帳などで確認しましょう

③ワクチン接種を2回していない人は、予防接種を受けることを検討しましょう

④「麻疹 (はしか)」にかかったかどうかや予防接種歴が不明な場合は、抗体検査を受けることを検討しましょう

★特に「麻疹 (はしか)」の流行地域 (沖縄県) や海外に行く予定のある人は、行く前に上記の②③の項目はやっておきましょう★

★旅行から帰ったら・・・旅行後2週間程度は健康状態 (高熱、全身の発疹、せき、鼻水、目の充血など) に注意しましょう★

### ★症状が出た場合の対応について★

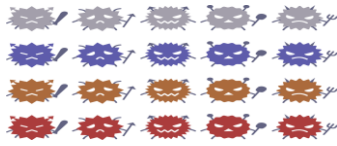
発熱、発疹等の症状から「麻疹 (はしか)」が疑われる場合は、必ずマスクを着用し、事前に医療機関に「麻疹かもしれない」ことを連絡の上、速やかに受診してください。

受診の際は、周囲の方へ感染を拡げないよう、公共交通機関等の利用を避けてください。

心配なこと等がありましたら、愛知県健康対策課または最寄りの保健所にご連絡ください。

\*「麻疹」の詳しい情報は、厚生労働省、国立感染症研究所、文部科学省、愛知県 Web ページ等の各ホームページでも入手できます。

★次のページの『はしかについて』も、よく読んでください★



# 麻疹（はしか）について



## 1 空気感染します

麻疹ウイルスの空気中での生存期間は2時間以下と言われている

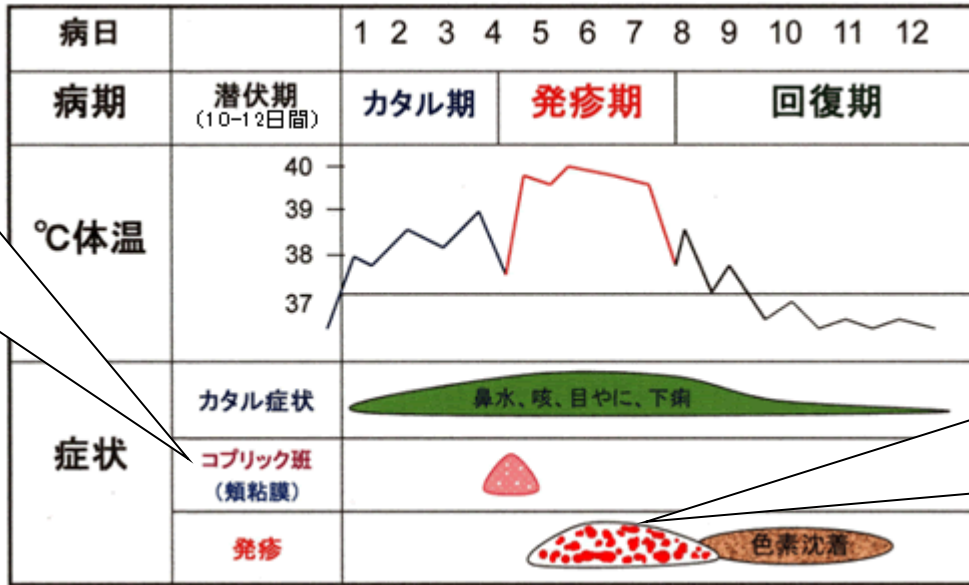
## 2 潜伏期間；10～12日（潜伏期間とは、ウイルスが体内に入ってから発症するまでの期間）

## 3 発症後；38℃前後の発熱が2～4日続き、咳や鼻水といった風邪のような症状

その後、少し熱は下がり、再び高熱（多くは39℃以上）出るとともに、発疹が出現  
発疹出現後3～4日間で解熱し、症状は軽快へ  
合併症がないかぎり7～10日後には症状が回復する



口の中の頬に白いポツポツが沢山できます。



全身に発疹

## 4 入院が必要なことが多い

麻疹は発熱が長く続き、体力の消耗が激しいため、合併症はなくても入院を要することが多い

## 5 近年はワクチンの2回接種が行われ、麻疹に感染する方は減っていますが、海外の流行国への渡航歴がある人やその接触者で患者は発生します。

## 6 麻疹患者と接触した場合は、発病までの期間を考慮し、接触後最大21日間の健康観察が必要です。

麻疹はインフルエンザなどと同じく学校保健安全法で**出席停止**になる感染症です。その中でなぜ最近、麻疹（はしか）だけが大きくメディアでとりあげられて、問題にされているのでしょうか。答えは、三つあります。

### 1 非常に感染力が強いこと

→ 広い体育館のような場所であっても、その中に麻疹患者がいると、そこにいる多くの人が麻疹ウイルスを吸い込んでしまうほどの強い感染力をもっています。

### 2 麻疹を発症すると重症化しやすいこと

→ 合併症として急性期には肺炎・脳炎となることがあります。数年後には亜急性硬化性全脳炎といった重篤な合併症を引き起こし、死亡することもあります。そしてこれらには、決定的な治療法がありません。

### 3 ワクチンを接種していない人が多いこと

→ 2回のワクチンでかなり確実に予防できる疾患であるにもかかわらず、予防接種をうけていない又は1回しか摂取していない方が多いです。